

奨学金申請時の心得

【申請前に確認すべきこと】

- 大学から奨学生として推薦された場合は、原則辞退はできません。
応募条件や支給内容だけでなく、採用された後の奨学生の義務も必ず確認し、申請してください（財団により、認定式や交流会などへの出席や定期的な課題提出が課されます）。
- 指導教員の推薦状が必要な奨学金の場合、申請前に教員に執筆許可を得てください。
その際には奨学金の案内等も渡して、奨学金の内容を事前に案内し、実際に執筆してもらう時に備えて、必ずスケジュールも伝えてください。
- 申請に必要な書類がそろっているか、必ず確認してください。
校内選考での提出する書類と財団が求めている書類には多少違いがあります。
手続き案内と募集要項を確認し、指定された書類を期日までに提出してください。
母国における最終学歴の成績証明書や日本語学校の各証明書が用意できないことも多発しているので、ご注意ください。

【書類の記入等について】

選考書類はあなたの印象を大きく左右する重要な要素です。相手に失礼のないよう、丁寧な記載を心がけてください。

- 財団側の記入上の注意等には必ず目を通し、それに従って記入してください。
指定の内容と違う記載や記入漏れがある場合は、書類不備とみなされます。
- 写真は必ず3ヶ月以内のものを使用し、撮影時は身だしなみを整え、可能な限りスーツを着用しましょう（面接時も同様です）。また、写真の加工は一切禁止です。
- 書き損じた場合は最初から書き直すのが基本です。
手書きの場合必ず下書きをしてから、間違いのないよう清書をしてください。
書き間違えた場合の修正液・修正テープの使用は一切不可ですので注意してください。
- 固有名詞（学校名称等）は、必ず正式名称を記入してください。
学校名は略さずに正式名称で記入する必要があります。事前に証明書やホームページ等で再確認してください。また、学部名や学科名についても、省略せずに正式名称を記載するようにしましょう。

奨学金申請時の心得

■記入事項がない欄や学歴等空白期間については注意が必要です。

学歴欄等にブランク期間がある場合、空白期間になった理由を明記してください。

例： ～2023年7月 ○○高等学校
 (卒業後、日本留学の為自宅学習)
 2024年4月～2025年3月 ○○日本語学校

すべて書き終えたら、記入漏れなどがないか必ず確認してください。特に記入することがない欄も、「なし」あるいは「0」等と記入してください（他に指定がある場合を除く）。

■申請書類を記入する際は、鉛筆や消えるボールペン（フリクション）は使用せず、必ず黒のボールペンで記入してください。 消えるペンで書かれた書類は財団に提出できません。PCで入力する場合、全ての文字が切れずに、枠内に収まっているか確認してください。

■継続申請の場合で以前提出したことがある書類でも、前回の内容をそのまま流用せず、必ず内容を再確認し、新たに願書を作成してください。

【面接について】

■面接がある場合は、あらかじめ場所、日付などを確認し、必ず出席できるように調整してください。 授業と面接が被った際は、事前に各自で担当教員と相談しておいてください。

【その他注意点】

■学内選考を行う奨学金の不明点は、個人で財団に直接問い合わせはしないでください。 わからないことがあった場合は、まず、国際交流センターにお問合せください。必要に応じて大学から財団に確認し回答します。

■日本出国の可能性がある場合は、必ず事前に国際交流センターにご連絡ください。 奨学金応募～決定までは、日本にいたことが前提となります。また、その後も長期出国が認められない奨学金もあり、無断での出国は受給資格を失うことになりかねません。

■退学、休学、留学の可能性がある場合も、早めに国際交流センターにご連絡ください。